

椿小学校で河川環境学習を開催しました。

椿小学校 4 年生の児童を対象に、「川の水をきれいにするための取り組み」について学習した後、身近な川の水や生活排水の水質検査、透視度検査を体験し、水をきれいにする事の大切さを学びました。

【実施概要】

日 時：平成 26 年 9 月 10 日（水）9：30 ～ 11：00

場 所：椿小学校、椿川

参加者：椿小学校 4 年生 7 名

徳島県 河川振興課 2 名

徳島県 南部総合県民局（阿南庁舎） 2 名

内 容：1 川の水をきれいにするための取り組み

2 水の汚れの原因（水質実験：透視度、COD パックテスト）

3 底生生物調査

【活動状況】

○「川の水をきれいにするための取り組み」

川の役割や川と人の関わりなど、川に関する基本的なことを学びました。また、川をきれいにするための取り組みやその大切さを学びました。



○「水の汚れの原因」水質実験（COD パックテスト、透視度測定）

身近な河川の椿川と水道水の透視度を測定しました。測定結果は、測定できる範囲の中では、椿川と水道水は同じ値（最高値）となり、椿川の水は透視度が高いことがわかりました。次に COD（化学的酸素要求量）をパックテストにより測定しました。椿川と水道水の COD を測定した結果、水道水に比べ、椿川のほうが COD が高いことがわかりました。また、川の汚れの原因となる生活排水として、身近にある食品（牛乳、ジュース、しょうゆ、スープ、米のとぎ汁、日本酒、焼き肉のたれの全 7 種類）の COD を測定しました。測定した結果、300ml の水に 2 滴程度混ぜたものでも 8～100mg/l と高い値を示す結果になりました。



このことから、残した食べ物を安易に流しや川に捨てることによって川がどれほど汚れてしまうかを知り、水質浄化のために自分達ができることを学びました。

○底生生物調査

はじめに、川に入る際の注意事項や底生生物の捕り方などを説明しました。その後、川に入り、みんな思い思いの場所で、いろいろな道具を使って底生生物や魚を捕獲しました。捕獲した底生生物や魚の名前を調べ、生物の種類から椿川の水質を判定しました。トビケラ、カゲロウ、カワニナなどの底生生物が生息していることが分かり、椿川の水はきれいな水であるということがわかりました。

